Original Paper
［査読有り］原著論文

中国語文脈指示詞“这”と“那”における時空上の使用法に関する認知研究

A Cognitive Study on Anaphoric Usage in Time and Space of Demonstratives “*zhe*” and “*na*”

陳 海涛
南京農業大学

Chen Haitao
Nanjing Agricultural University
No. 1 Weigang, Nanjing, 210095 China

キーワード：認知研究，近い，遠い，文脈指示詞，プロトタイプ理論，拡張
Key words：Cognitive Study, Approximate, Distant, Demonstratives, Theory of Prototypes, Expansion

抄録

中国語の指示詞には,近称“这”と遠称“那”という 2 項体系がある．また,中国語指示詞に関する研究はかなり行われている．しかし,現場指示における「遠近」という基本的な要素から時間的・空間的という文脈使用法までの拡張ルートを研究する論文はない．よって,本稿では,プロトタイプ理論を応用し,“这”と“那”の使用に関わる時間的・空間的把握における心的メカニズム（拡張ルート）を明らかにしたい．

1．はじめに

中国語の指示詞は,近称“这”と遠称“那”からなる二系列である．劉[1]（2012:112）によると,中国語の指示詞に関する研究史は,概ね三つの段階に分けられていると指摘している．第一段階では,中国語の指示詞は,“这”と“那”に関する史的研究が主流であった．第二段階では,構造主義言語学の観点から指示詞について考察を行っている．第三段階では,沈家煊（1999）,胡俊（2006）,楊玉鈴（2006, 2011）らが代表的な研究で,主に指示詞の使い分けを述べている．上記の研究以外では,中国語指示詞に関する認知研究も挙げられる（沈家煊1999, 徐学平2010など）．しかしながら,“这”と“那”における時間的・空間的な使用のみに焦点を絞って,認知研究を行う研究は管見のかぎりないという状態である．

したがって,本稿では,プロトタイプ理論を応用し,『中日対訳コーパス』を利用し,例文を収集して分析を行う．現場指示というプロトタイプ的用法から文脈指示詞“这”と“那”という周辺的用法までの拡張ルートを追究したい．具体的に言うと,現場指示における距離上の「遠近」という主要な要素は文脈指示における時間や空間において,どのように応用されるのか,即ち,その派生における心的メカニズムを明らかにしたい．

2．先行研究

2.1.　呂（1980）

呂（1980）[2]は,指示詞“这”と“那”に関する基本的な用法を下記にように述べている．

> “这”：指示比较近的人或者事物．（近くにいる人や事物を指す）
>
> 呂（1980:584）（訳文は筆者）

> “那”：指示比较远的人和事物．（遠くにいる人や事物を指す）
>
> 呂（1980:351）（訳文は筆者）

2.2.　梁（1986）

梁慧[3]（1986:14）は指示詞の使い分けに,話し手要因のほかに,聞き手の要因も影響するということを主張している．

(a)「这」は空間的・時間的に話し手に近いもの, また, 空間的・時間的に話し手から一定の距離にあるものであっても, 聞き手にもよく知られ, 精神的に近いと感じられるものを指示するのに用いる.

(b)「那」は, 空間的・時間的に話し手から離れたもの, しかも聞き手がまだ知らないものを指示するのに用いる.

(c)ただし, 空間的・時間的に話し手から離れたものを指す場合, その指示対象の存在する場所と発生する時間の客観性が強調されるとき, 聞き手が知っているものであっても,「这」で指すことができない.

2.3.　呉人・芦・加藤(2005)

呉人・芦・加藤[4]（2005:13）では,指示詞の使い分けについて,下記のような説明を行っている.

先行詞そのもの,あるいは先行詞から活性化された情報,すなわち,概念的知識を指示している場合,言い換えれば短期記憶に収めてある情報の場合には「这」を用いる．これに対して,長期記憶の中の情報を指示している場合には「那」を用いる．しかし,長期記憶の中にある情報であっても,直示のように目の前にあるかのように生き生きと叙述しようとする場合には「这」を用いる．すなわち,文脈指示は「这」であり,既知指示は「那」である.

また,下記のような例も挙げられている.

(42)　下周三开教授会，那时我们再商量吧.
（来週の水曜日に教授会を開きますから,
その時,また相談しましょう）
呉人・芦・加藤(2005:18)

呉人・芦・加藤(2005:18)は, この例文は「時間的に未来のことについて述べているので,『那』を使っている」と述べている.

2.4.　木村（2012）

木村[5]（2012：68）は指示詞の使用について下記のように述べている.

指示詞の選択を決定するのは,自分(すなわち話し手)と指示対象との間に感じられる物理的・心理的な遠近感であって,相手(すなわち聞き手)の存在は,この遠近の認識に影響を与える一要因であるにすぎない．その意味で,中国語の指示詞の運用はあくまでも自己中心的であると言える.

2.5.　中国語の先行研究における問題点

先行研究において, 近称の“这”と遠称の“那”に関する研究はかなり行われている．しかし, それぞれまだ問題がある．さらに, 距離上の「遠近」という基本的使用法から, 時間的・空間的な使用まで,“这”と“那”の拡張ルートに関する研究は, 管見のかぎりないという状態である.

３．“这”,“那”文脈指示詞における時間・空間上の適用

平田(2015)は,現場指示と文脈指示の関係について,下記のように述べている.

言語哲学的研究(Bühler 1934)や,意味論的研究(Lyons 1977)においては,直示と照応では,直示の方が本来的で始原的な用法であり,直示から照応が派生したということが前提として共有されている．この考え方は指示詞研究でも共有されており, Fillmore(1971, 1982), Anderson and Keenan(1985), Levinson(1983, 2004)等の言語類型論的な指示詞研究では,指示詞のプロトタイプ的な用法は直示用法であり,照応用法を含む非直示用法は直示用法から派生した周辺的な用法として扱われている.
(平田　2015:1)

よって,中国語指示詞の使用法についても,現場指示というプロトタイプ的用法から文脈指示という周辺的用法へと拡張するという過程があると考えられる.

次は具体的な例(具体的な応用)を示しながら, それぞれ時間と空間における特徴を抽出する．さらに, 現場指示から文脈指示への拡張ルートを明らかにしたい.

3.1.　時間

これから，「現在」「過去」「未来」というカテゴリーに分けて，それぞれの特徴を分析する．

3.1.1.　現在

例 1）这时蹒跚地走来一个胖胖的老妇人，百分之百的中国血统．妇人穿着紫红色的中式便服，绣花缎面鞋，满脸笑容，两腮肌肉松弛地耷拉下来，显得和蔼可亲．只是两眉正中有三道深浅不一的纵纹，又使人觉得她未必有很好的脾气．

王蒙《活动变人形》

（訳文）そのとき，一人のふくよかな老婦人が，覚束ない足どりで姿を現した．百パーセント中国の血統である．エンジ色の中国服に刺繍を施したドンスの靴，にこやかである．両頬のやや弛んでいるのはむしろ愛嬌だが，眉間に刻む三本のシワは，気難し気な印象を与える．眉間に刻まれた三本のシワは，気難しげな印象を与える．

視点という用語は文学の分野でよく使用される．ジェラルド・プリンス[7]（1996）によると，視点は「無制限な（無設定の）視点」，「内的視点」，「外的視点」という三つの類型を持っていると指摘している．

この例文は，小説の地の文から引用したものである．作者は頭の中で発話したいことを整理し，それを文字化して表出する．作者の描写の仕方により，文学上の効果にも差がある．この例文では，作者の視点は「内的視点」を取り，描写している物語が発生している当時のように，読者に示している．また，「百パーセント中国の血統である．（中略）気難しげな印象を与える」という文から見ると，“老妇人”の現在の様子を描写していると考えられる．

よって，この例文は時間的に言うと，現在である．今進行中のことは心理的に近いので，“这”系近称指示詞を使用する．また，文脈指示において，時間を表す際，指示詞“这”が持っている一番基本的な意味合いは「現在」であると考えられる．この例文では，話し手は指示対象に対する情報を優先的に持ち，新情報として読み手に紹介するので，読み手の視点や指示対象に対する知識を持っているかどうかを考慮する必要はないと考えられる．

一方，日本語の場合では，「その」を使用している．作者（書き手）は「外的視点」を取り，上から物語の発生する当時の様子を俯瞰して，客観的に物語を述べている．しかし，中国語の場合では，“那时”の使用はやや不自然な感じがする．

例 1-1）*那时蹒跚地走来一个胖胖的老妇人，百分之百的中国血统．

なぜ“那时”を使用できないのかというと，それは“那时”を使用すると，もう「現在」ではなく，「過去」になってしまうからである．また，「現在」を指示する際，近称指示詞“这”しか使えない．これは“那时”が「現在」に使えない論点にも合致していると思われる．

例 2）大白天，你走到一个小胡同里，僻僻静静，四周没有一个人，这时候前面出现了一个男人或者女人，向你那么一笑——还笑呢．再向你把手轻轻一招，不好！左面是海，右面是峡谷，后面是火．

王蒙《王蒙自传》

（訳文）まっ昼間でも人気のない小さな横町に入るとね，向うから男か女がやってきてニッコリ笑いかけてくるのーニッコリよ．それから手招きするの，さあ大変！左は海，右は深い谷，後ろには火が燃えてる．

この例文でも，指示詞“这”を使用し，「現在」を指示している．

3.1.2.　過去

例 3）那时候，顾小西还不知道什么叫“回报”，等她知道的时候，才发现妈妈当年这个词用得太温情脉脉了．

王海鸰　《新結婚時代》

（訳文）あの時，顧小西は「お返し」の意味がよくわからなかった．結婚してから，その意味がわかってきたが，それにしては，母の言葉はまだ甘すぎると思った．

呂[8]（1985）によると，“那”は過去のことを指し示す．この例文は小説の地の文から取った文であ

る．作者は小説の中の人物である“顧小西”と共有の視点に立って発話している．発話する時点は小説の中で設定されている現在である．“那时候(あの時)”は“顾小西还不知道什么叫“回报”（顧小西は「お返し」の意味がよくわからなかった)”という時のことを指している．よって，“那时候”は発話する時点を指すのではなく,過去の時点を指している．また，“那时候”は具体的な日付を明示していないので,話し手にとって,有標であると判断できる．

例 4）这年他搬去了上海．
(訳文)その年彼は上海に引っ越した．

この例文において，完了助詞“了”を使っているので，“搬(引っ越す)”という動作が過去で発生して，すでに完了したことであると判断できる．過去のことは時間的・心理的に近いとは言えないので，“那”系遠称指示詞を使用し，過去のことを指示するのは一般的であると推測できる．

この例文では“那”ではなく，あえて“这”系近称指示詞を使用している．その要因は下記の二つから求められる．

① “这”の使用は，話し手が指示対象に対する心的距離を示し，焦点が指示対象「年」に移り，聞き手の関心が指示対象に寄せられたという効果も果たしている．また“这”の使用は，指示対象が生き生きとしているというニュアンスもある．
② 現場指示において，“这”の基本的な使用法は，近くにあるものや人を指示する(呂 1980)ということである．ここでの「近」とは，指示対象が話し手にとって距離上近いと解釈しても差し支えない．また文脈指示用法は，現場指示用法から拡張してきたという論説が多く見られる（Fillmore1982，Anderson・Keenan1985，Levinson2004）．この例文では，現場指示における距離的に近いという基本的な用法から心理的に近いまで拡張してきたものであると考えられる．そして，現場指示用法と文脈指示用法における話し手の指示対象に対する認識上の類似性も見られるであろう．

上記の例文では，指示詞“这”，“那”はいずれも過去のことを指示できる．それぞれの使い分けに関して，下記のように考えられる．

まず，“这”の基本的な意義は，指示対象が近くにある(いる)ということである．よって，“这”は「過去」を指示する際，指示対象に焦点を与え，目の前で発生するような，生き生きとしているニュアンスがある．また，“那”の基本的な意義は指示対象が遠くにある(いる)ということである．「過去」とは「現在」までである程度の時間を経て，指示対象が心理的に遠いと認識しているということは断言できる．つまり，距離的な判断基準は，心理的な距離まで拡張してきたと思われる．

また「過去」が，時間的・心理的に「遠い」という認識は，現場指示詞“那”が持っている基本的な意義，即ち，距離的に「遠い」ということの平行線上のものであるため，例3）では，指示詞“那”の使用は本機能で，省エネルギーであると考えられる．指示詞“这”の使用は心理的に寄せ，エネルギーがかかる使用法である．以上の説明は下記の図1として表記する．

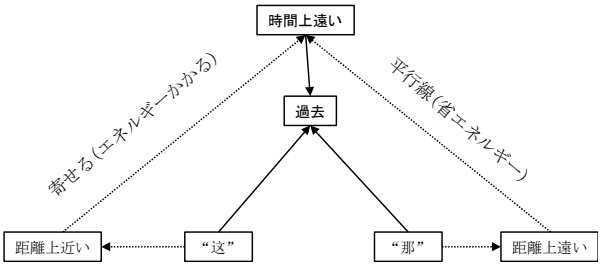

図1　過去における応用

3.1.3.　未来

例 5）姐姐要去何家村过年的事令小航遗憾．不是舍不得姐姐，为简佳的事他至今跟姐姐都不怎么说话．令他遗憾的是，他们，主要是姐夫，要是不回何家村就会回来过年，那么至少，这个春节全家的炊事问题就解决了，姐夫以一当十．

王海鸰　《新結婚時代》

(訳文)ところ変わって，小西の実家である．小航は，姉が夫の実家に行って春節を過ごすのを，残念に思っていた．姉と別れるのがつらいのではない．簡佳のことで，これまでに姉とはほとんどまともに話し合っていないことと，いま一つは，義理の兄さんについて

であった．もし，彼ら夫婦が田舎に行かなかったら，必ず姉の実家――つまり自分の家に来る．そうなれば，少なくとも春節の休みの間，我が家の食事問題は解決する．

この例文では，作者は小説の中の人物“小航”の視点を取り，“小航”の心内での台詞を述べている．“小航”は，自分の姉が春節をどこで過ごすかについて悩んでいる．もし，姉が義理の兄さんの田舎に行かなかった場合は，義理の兄さんは「春節の休みの間，我が家の食事問題は解決する」ということになる．つまり，“这个春节”を発話した時点では，その時期がまだ来ていないので，将来のことを指示することを判断できる．呂によると，“这”は過去と現在のことを指示するとあるが，実は“这”は，未来のことも指示することができる．

例 6）不等何建国说话马上有人接茬儿说晚了花才便宜，情人节的玫瑰就像中秋节的月饼，头天还一百多块钱一盒呢，到了中秋节那天你再看，上午五十，下午二十五都不一定卖得出去．一屋子人都笑了．都知道他们头儿在钱的问题上，一向精明．

王海鸰　《新結婚時代》

（訳文）建国が口を開く前に，横合いから誰かが口をはさんだ．「いや，こういうときの花は，遅くなるほど安くなるんだ．バレンタインの日のバラは，秋の十五夜の月餅と同じだ．前日に一箱百元以上したものが，当日になると，午前中は五十元，午後には二十五元まで値下げして，それでも売れ残ることがある」と言ったものだから，居合わせた人たちはみな笑った．みんな，ボスが金遣いに細かく，賢いことを知っていたからだ．

主人公“何建国”は，バレンタインデーの日に花を奥さんに買ってあげようとしている．しかし，早めに注文するのではなく，その日の終わりぎりぎりになってから花を買おうとしている．同じ職場で働いている人は，バレンタインデーの日が終わるぎりぎりになってから花を買うことは，中秋節の日に月餅を買うことと同じである．中秋節の前日は月餅が百元以上で，中秋節の日に買うと，朝五十元ぐらいで，夜になったら二十五元ぐらいの安い値段でも売れないという状況である．

この例文では，指示詞“那”は「中秋節」を指している．ここでの「中秋節」とは，特定した日ではなく，ただ仮定した日である．よって，時間的にいうと過去でもなく，現在でもない．将来の未定の中秋節を指していると考えられる．例えば，この例文の発話時点は 1980 年だったら，“中秋節那天”は 1980 年以降のある不特定の“中秋節”を指示する．よって，指示詞“那天”は未来における不定の日を指示している．以上の説明は，下記の図 2 で表記する．

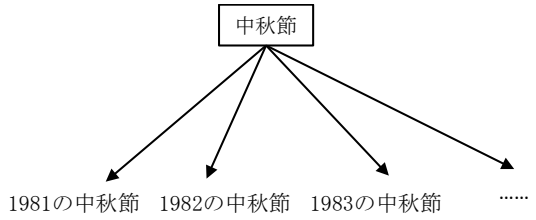

図 2　中秋節における時間要素

指示詞“这”と“那”は未来を指示する時の区別を究明するため，まず，それぞれ「未来」や「過去」を指示する時の使い分けから，それを掘り起こしたい．

例 5）（前略）这个春节全家的炊事问题就解决了，姐夫以一当十．（未来）

（訳文）（前略）この春節の休みの間，我が家の食事問題は解決する．

（再掲）

例 5-1）那个春节全家的炊事问题就解决了，姐夫以一当十．（過去）

（訳文）あの春節の休みの間，我が家の食事問題は解決する．

（再掲）

この二つの例文は統語的には正しいが，意味合いは異なっている．例 5）では，指示詞“这个”を使用し，未来のことを指示する一方，例 5-1）では，指示詞“那个”を使用する場合は，過去を指示しているという意味合いになる．この二つの例文の区別は，前文照応（時間設定に関する説明）があるかどうかと関わっている．つまり，例 5）では指示対象に関する描写（文脈持ち込み）がある一方，例

5-1）ではない．

これについては，現場指示“这”の基本的な使用要素の「近」から求められる．まず，「現在」は「近」という要素に当たるので，“这”が時間を指示する際，「現在」を指すのは基本的用法である．また，「過去」や「未来」は「近」より「遠」という要素に近い．したがって，「遠」にあたる「過去」や「未来」にも使えるものの，その際は「心理上拡張」や「文脈持ち込み」を必要とする．

これから，指示詞“那”が過去や未来を指示する際の使い分けを考察する．即ち，それぞれが持っている認知モードを分析する．まず，下記の例を見てみよう．

A 将来有一天我们还会重逢，但是那时你不一定会记得我．
（訳文）また会うチャンスがあるよ．ただし，その時，私のことをもう忘れているかもしれないね．

B 等毕业以后，他那会儿该可以独立生活了．（呂 1981:354）
（訳文）卒業したら，その時には彼は一人暮らしできるかな．

C 你那会儿还是个小学生呢．（呂 1980:354）
（訳文）あの時，君はまだ小学生だ．

D 那会儿当农民，现在当工人．（呂 1980:354）
（訳文）以前は農民の身分で，今は労働者です．

例 A と例 B では，指示詞“那”は未来のことを指示する一方，例 C と例 D では，指示詞“那”は過去のことを指示している．

例 A と例 B において，指示詞“那”は前方照応の用法である．つまり，指示詞“那”を使用する前には，時間設定が必要である．例 A において，“那时”を使用する前には，“将来有一天（直訳：将来のある日）”という文がある．例 B において，“那会儿”を使用する前には，“等毕业以后（直訳：卒業した後）”という文がある．しかし，例 C や例 D において，指示詞“那”が過去のことを指示する時，前文において，時間描写に関する文脈はない．また，下記の例もある．

E 那个时候还不知道谁后悔呢．
（訳文）その時，誰が後悔するかまだわからないでしょう．

F 那个时候她可能早就不在了．
（訳文）その時，彼女はもしかしてもういないかも．

例 E と例 F では両方とも，未定・未発生のことを指示する．「未定・未発生」のことは時間的にいうと，将来である．よって，この二つの例文では，指示詞はいずれも未来のことを指示する．しかしながら，指示対象に関する描写（文脈持ち）はない．例 E における後文“还不知道谁后悔呢（誰が後悔するかまだわからないでしょう）”と例 F における後文“她可能早就不在了（彼女はもしかしてもういないかも）”は時間を限定している．

したがって，指示詞“那”が未来を指示する際，「文脈持ち込み」は必須項ではない．ただし，時間を未来に限定する文脈が必要である．

遠称指示詞“那”の基本的な使用法は，「遠」という要素から求められる．「過去」は「遠」にあたる．従って，遠称指示詞“那”が，過去のことを指示するのは基本的な用法である．「近」に当たる「現在」には使用できない．しかし，「未来」に関してはどちらかと言えば，「近」より「遠」に近いので，「文脈持ち込み」は絶対必須にはならない．ただし，「過去」という用法と区別するため，時間設定が必要である．それもある意味で，遠称指示詞“那”が未来のことを指示するということは，基本的な用法から排除できると考えられる．

3.2　空間

次は空間について，「現在地」と「現在地ではないところ」に分けて，分析を行う．

3.2.1.　現在地

例 7）虽说是夏天，但这里——倪藻出国以前不止一次地看过地图——的纬度与中国最北部的城市黑龙江的漠河差不多，又加上阴雨，倪藻只觉得象是春天．也许更象乍暖还寒的早春天气呢．

王蒙《活动变人形》

（訳文）夏とはいえ，ここは—出発前，何度も地図を見たのだが—中国北の最果て，黒龍江の

漠河の町とほぼ同緯度にある．その上この陰雨だ．彼にとっては，春とは名ばかりの肌寒い早春というべきか．

作者は主人公（倪藻）の立場に立って，即ち，主人公（倪藻）と共有する視点を持っている上で，物語を述べている．ここで“这里”を使用し，主人公（倪藻）がいる現在地を指している．また，“这里”が現在地を指示しても，指示範囲が異なっている．それについて，まず，下記の例文を見てみよう．

A（先生は自分の研究室にいて，学生に電話をかけている）．
来我这里一下．
（訳文）私の研究室に来てください．

B 我爱这里，因为这里是我的学校！
（訳文）ここが好きです．ここは私の学校だから．

C 我的家乡在甘肃，这里属于西北．
（訳文）私の故郷は甘粛省です．西北にあります．

例 A では，指示詞は話し手の研究室を指示し，例 B では，話し手の学校を指示し，例 C では，話し手の故郷，即ち，甘粛省を指している．例 A から C まで，“这里”が指示する範囲（面積）が徐々に広くなっていく．つまり“这”系文脈指示詞は，面積が狭いところを指示できるし，面積が広いところでも指示できると考えられる．また，指示する範囲の広さは文脈により決まる．

例 7）では，“这里”は主人公（倪藻）がいる都市（イタリア）を指示している．現在地を指示するので，“这”系近称指示詞を使用する．しかし，指差しなどがないので，現場指示用法とは言えない．この例は，現場指示から文脈指示に移行する考え方をよく表していると思われる．

例 8）“是的是的，”赵微土对电话讲得很兴奋，“就是倪吾诚老先生的儿子，人家大老远的要去看您……不，不吃饭，我们这儿有安排……是的，他八点钟以前要离开您那里，八点半他还有事……好的，我们七点二十分到您那里，在您那里呆四十分钟……”

王蒙《活动变人形》
（訳文）「そうです，そうです」と趙微土は電話に向かって興奮気味にいう．「その通り．倪吾誠先生の息子さんで，はるばる見えて貴女にお会いしたいと……．いや，食事は要りません，こちらで用意してありますから……．ええ，彼は八時前にお宅を辞さなければなりません．八時半に他のスケジュールがあるもんで……．分かりました，じゃ七時二十分に伺って，四十分ほどお邪魔するということで……」

この例文は小説の中での会話である．話し手（趙微土）は相手に電話をかけている．それゆえ，趙微土と相手は異なる場所にいると判断できる．話し手（趙微土）は，自分のいる場所を“这儿”と表記し，相手がいる場所を“那里”と表している．つまり，自分がいる場所を近称指示詞“这”で指示し，相手がいる場所を遠称指示詞“那”で指示している．ここでは，指示詞の使用により，空間を分割し，話し手のいる領域と相手がいる領域を区分している．

現場指示の場合，指示詞を使用し，指差しなどにより，具体的な場所を指定する．この例文では，話し手は“这儿”を使用し，自分がいる場所を指示している．“这儿”が指示する場所は話し手がいる部屋，または，予約した店などと推測できる．しかし，具体的な場所に関する文脈がないので，判断しにくい．よって，この例文では，“这儿”を使用し，具体的な場所を指示するのではなく，具象性がない場所，すなわち，話し手（趙微土）がいる領域（ワレ領域）を指示している．

中国語の現場指示用法において，具象性がある場所を指示する一方で，文脈指示使用法において，具象性がない場所も指示できるという拡張ルートが見られる．それは人間の認識上の空間メタファーの用法の適用であると考えられる．

3.2.2.　現在地ではないこと

例 9）“不用瞒我，我闻着你家那院子的味儿就不对．”“你的鼻子这么灵啊？”“你别急着走．我说，那个发家致富的比赛，又要雨过地皮湿了吧？”“看样子赛不起来了……”

莫言《金光大道》
（訳文）「かくしなさんな，おめえんとこの庭からそんなにおいがしてきたぞ」「ずいぶんいい

鼻だな」「そう急いで歩くなよ，例の身上作りの競争はまた尻きれとんぼになりそうだな」「どうも競争はオジャンになったようだ……」

この例文では，指示詞“那”は 相手の“院子(庭)”を指示している．指差しなどがないため，現場指示用法とは考えられない．この例文では，発話時点は「現在」で，話し手と聞き手が発話する現場にいると判断できる．話し手は自分の発話する時点でいる場所を原点として，話し手にとって離れた場所(現在地ではない)を指示する時，近称指示詞“这”を使用せずに，遠称指示詞“那”を使用している．つまり，話し手は“院子(庭)”に立っていないので，“那”系遠称指示詞を使用し，現在地ではない場所を指示する．また，現在地ではないところを指示する際，指示詞“那”しか使用できない．

また，例 9）において，指示詞“这”も使用することができる．ただし，ニュアンス的には差がある．

例 9-1）不用瞒我，我闻着你家这院子的味儿就不对．

（訳文）かくしなさんな，おめえんとこの庭からそんなにおいがしてきたぞ．

指示詞“这”を使用する場合，話し手が相手のいる場所，即ち，“院子（庭）”に立っているという意味合いを持っている．

ここからは，場所を指示する際の“这”と“那”の使い分けを論じる．

この点について説明すると，現場指示が場所を指示する際の心的表象を考えてみよう．まず，時間上は「現在」で，距離上の「遠近」により使い分けをする．話し手が立っている場所を参照点として，話し手が立っている場所から近いところを指示する際，近称指示詞“这”を使用し，遠いところを指示する際，遠称指示詞“那”を使用している．

したがって，例 9）と例 9-1）では，話し手は客観的な事実，即ち，距離上の遠近に基づき，指示詞の使い分けする．話し手の主観関与（心理上の遠近による）は，この例文には効かないと考えられる．即ち，それら指示詞の使用法は，現場指示用法との心的表象（使い方）が類似しているため，指示詞の使用は距離上の「遠近」により決まる．つまり，現場性に依存している．

しかし，場所を指示する際，全て現場指示用法と同じ心的表象を用いているとは言えない．下記の例を見てみよう．

例 10）倪吾诚就这样在一九四三年五月死而复生，缺乏医学根据地离开了北京．他先到了江苏的一个小城投奔一个同学，混了几个月，没落住脚．后又辗转于山东，河北，最后栖息于胶东半岛．在临海的一个学校当教师，当校长．山中无老虎，猴子称大王．在那个滨海城市，倪吾诚俨然学界一人物．离京后的倪吾诚，性格发生了一些变化．他更重实惠，重享乐，而轻道义，轻廉耻．

王蒙《王蒙自传》

（訳文）倪吾誠はかくて一九四三年五月，死して再び蘇り，医学的根拠も不明のまま北京を去った．ひと先ず江蘇省の小さい町にいる同級生の許へ身を寄せたが落ちつかず，数ケ月で辞した．山東，河北を転々とした後，膠東半島に居つき，海に臨むとある学校で教師となり校長となる．この海浜の町では倪吾誠もいっぱしの学者で通り，文字通りお山の大将であった．北京を離れてからの彼は性格も少し変わってより実益と享楽に傾き，道義と恥辱を軽んじた．

この例文は小説の中での文である．作者は俯瞰の視点で物語を述べている．小説の中の人物である“倪吾诚”は，その前からずっと北京で暮らしている．“一九四三年五月”に北京から転居し，最後に“胶东半岛”という“滨海城市”に移住した．つまり，指示詞“那个”は，前文で出てきた“胶东半岛”という場所を指示している．

この例文では，指示詞“那”と“这”を入れ替えることができる．ただし，ニュアンスには差がある．指示詞“那个”を使用する場合では，話し手は冷静に，指示対象を指示するというニュアンスがある．指示詞“这个”を使用する場合は，作者の一種の視点の移動があり，焦点は指示対象“胶东半岛”に移したというニュアンスがある．

また，同じ使用法は下記の例文にもある．

例 11）祖国宝岛台湾省的东南海滨有个台东县．那里坐落着一片片高山族的农寨渔村．

（訳文）我が祖国の宝島台湾の東南の海岸に台

東県がある．そこには高山族の農民漁民の部落がたくさん点在している．

（讃井 1988:14）

例 11-1）祖国宝岛台湾省的东南海滨有个台东县．这里坐落着一片片高山族的农寨渔村．

（訳文）我が祖国の宝島台湾の東南の海岸に台東県がある．ここには高山族の農民漁民の部落がたくさん点在している．

この二つの例文では，遠称指示詞“那”と近称指示詞“这”の両方とも，“台东县”を指示できる．ただし，それらの使用には差がある．

これから，上記の例文の区別を分析したい．

例 9）において，指示詞の使用法は，現場指示用法と同じ心的表象（使い方）を持っている一方，例 10）と例 11）においては，他の心的表象を持っている．

例 9）において，“我闻着（私は嗅ぐ）”を使用している．“闻着”とは動詞“闻（嗅ぐ）”と持続のアスペクト助詞“着”の組み合わせである．“我闻着（私は嗅ぐ）”から見ると，話し手の「私」という要素は，発話場面に直接介入している．即ち，話し手は発話で描写している情景（特定の時間・空間）の中に存在している．時間や空間を指示する際，「現在」や「現在地」を参照しなければならない．つまり，現場性が強いため，空間を指示する際，客観的な物理上の「遠近」により，指示詞の使い分けをする．よって，例 9-1）において指示詞“这”，は話し手がいる現在地を指示している一方，例 9）において，指示詞“那”は，現在地ではない場所を指示している．

例 10）と例 11）においては，話し手は発話で描いている情景の中に存在していない．即ち，話し手は発話場面に直接介入していないため，“这”と“那”を自由に使用できると考えられる．指示詞の使い分けは，遠称指示詞“那”と近称指示詞“这”の意味的性質の違い（語感上の差異）から求められる．

つまり，話し手の居場所は，指示対象（現在地，現在地ではない場所）の参照点になるかどうかに関わっている．

以上の説明は下記の表 1 でまとめる．

表 1　まとめ

	過去	現在	未来	場所
“这”	○	○	○	現在地
“那”	○	×	○	現在地ではない

4．指示詞“这”と“那”は時空上の拡張ルート

次は指示詞“这”と“那”の時空上の拡張ルートを明らかにしたい．

4.1.　“这”における時空上の拡張ルート

現場指示“这”の基本的な使用法は，「話し手にとって距離上近い」ということである．その現場指示における基本的な使用要素「近」は，文脈指示用法まで拡張してきた．文脈指示において，近称指示詞“这”が時間を指示する際，「現在」や「過去」，「未来」のいずれも指示できる．指示詞“这”は「近い」という認識と密接に関連するため，「現在」を指示するのが一番基本的な用法であると推測できる．また，「過去」を指示する際，“那”を使用するのは一般的であるが，“这”を使用する場合，目の前で発生したように生き生きとしている．それは現場指示“这”の一番基本的な意味は，「近い」から拡張してきたものであるからだと考えられる．つまり，「近い」という意義を利用し，焦点を指示対象に移し，話し手の関心を指示対象に寄せるという談話効果も果たしている．また，「未来」を指示する際，文脈の持ち込みが必要である．それは「過去」や「未来」は，「近」より「遠」という要素にあたるので，「過去」や「未来」を指示する際は，「心理上拡張」や「文脈持ち込み」を必要とする．

指示詞“这”が場所を指示する際，話し手は発話で描写している情景に直接介入しているかどうかにより，その使用法も異なっている．話し手が発話で描写している情景に直接介入している場合，“这”は「現在地（ワレ領域）」を指示する一方で，“那”は「現在地ではないこと」を指示している．それは厳密的に言えば，“这”と“那”がそれぞれ持っている基本的な意味の「遠近」（物理上の遠近）により，使い分けができる．また，話し手が発話現場に介入していない場合，話し手の主観的感情（心理上の遠近）により，指示詞を使い分けている．指示詞“这”を使用する場合は，話し手の焦点を指示対象に移し，話し手の関心も示すというニュアン

スがある．

上述した通り，それは現場指示用法と文脈指示用法における話し手の指示対象に対する認識上の類似性も見られるであろう．

以上の説明は下記の図 3 で表記する．

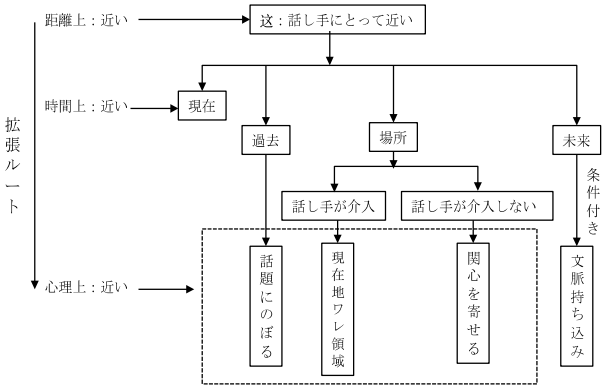

図 3　指示詞“这”の時空上の拡張ルート

4.2.　“那”における時空上の拡張ルート

現場指示“那”の基本的要義は，「話し手にとって距離上遠い」ということである．その現場指示における基本的な使用要素「遠」は，文脈指示用法まで拡張してきた．文脈指示において，遠称指示詞“那”は時間を指示する際，「過去」や「未来」を指示できる．「過去」とは心理上遠いと認識しているので，“那”が「過去」を指示するのは，基本的な用法であると考えられる．「現在」は「遠」より「近」にあたるので，“那”は「現在」を指示できる．また，「未来」を指示する時，文脈持ち込みは必要ではないが，「過去」という用法と区別するため，時間設定（条件付き）が必要である．

指示詞“那”が場所を指示する際，話し手が発話で描写している情景に直接介入しているかどうかにより，その使用法も異なっている．話し手が発話で描写している情景に直接介入する場合，“那”は「現在地ではないこと」を指示している．また，話し手が発話現場に介入していない場合及び指示詞“那”を使用する場合は，話し手は淡々と指示対象を客観的に述べるというニュアンスがある．以上の説明は下記の図 4 で表記する．

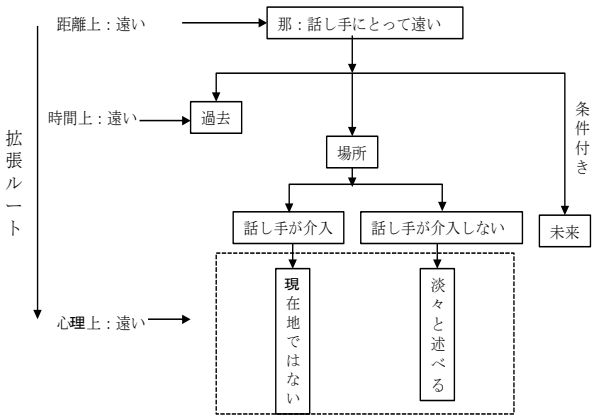

図 4　指示詞“那”の時空上の拡張ルート

5．結論

以上の分析に従って，下記の結論を導くことができる．

① 中国語現場指示における距離上の「遠近」という認識は，時間，空間，心理まで拡張してきた．時間や空間を指示する際，現場指示用法と根強く関わり，現場性（客観性）に依存している．

② 文脈指示用法は，現場指示用法から拡張してきたという論説が多く見られる（Fillmore1982，Anderson・Keenan1985，Levinson2004）．また，現場指示“这”と“那”の基本的な使用法は，それぞれ距離上の「近」と「遠」から求められる．よって，「遠近」という要素は心的メカニズム（拡張ルート）により，文脈指示用法まで派生してきたと考えられる．

用例出典

『日中対訳コーパス』CD-ROM 版，北京日本学研究センター編．『対訳コーパス』とは北京日本学研究センターにより，開発され，制作されたコーパスである．中国語における文学作品は 23 編，日本語における文学作品は 22 編を収録している．全て，訳文が付いている．

引用文献

[1]劉驫. 日本語と中国語の文脈指示詞の対立型と融合型–談話モデルによる分析をもとに. 京都大学大学院人間・環境学研究科. 2012,21.p.111-120.

[2] 吕叔湘. 现代汉语八百词. 商务印书馆. 1980,p.351-361, 584-594.

[3]梁 慧.「『コ・ソ・ア』と『这・那』-日本語・中国語の比較対照研究-」.『都立大学方言学会報』.1986,116,p.9-18.

[4]呉人恵ほか. 指示詞の照応用法に関する日本語と中国語の対照研究. 富山大学人文学部紀要. 2005, 43,p.1-22.

[5]木村英樹. 中国語文法の意味とかたち—「虚」的意味の形態化と構造化に関する研究. 白帝社. 2012,p.68.

[6]Lakoff, G(1987) 『Woman, Fire, and Dangerous Things』Chicago and London: The University Of Chicago Press(池上嘉彦訳(1993).『認知意味論』紀伊國屋書店).

[7]ジェラルド・プリンス. “物語論の位相—物語の形式と機能”. 遠藤 健一（翻訳）. [6

[8]吕叔湘. 近代汉语指代词. 学林出版社. 1985.

参考文献

[1]Fillmore. Charles J. Towards a descriptive framework for spatial deixis. In: Robert J. Jarvella and Wolfgang Klein (eds.) Speech, place, and action: Studies in deixis and related topics. Chichester: John Wiley & Sons Ltd. 1982,p. 31-59.

[2] Anderson. Stephen R. and Edward L. Keenan . Deixis. In Timothy Shopen (ed.) Language typology and syntactic description, vol. 3 Grammatical categories and the lexicon. Cambridge: Cambridge University Press. 1985,p. 259-308.

[3] Levinson, Steven C. Deixis. In Horn, Laurence R. and Gregory L. Ward (eds.) The Handbook of Pragmatics. (Blackwell handbooks in linguistics 16) Oxford: Blackwell. 2004,p.97-121.

[4]徐学平. 自触和他触情境对空间指示语选择的影响. 外国语. 上海外国语大学学报. 2010,33.p.17-22.

[5]陳海涛.中国語におけるフィラー“那个”の使用における心的モニターの構造とその由来. 日中言語対象研究論集. 日中対照言語学会. 2016,18.p:180-199.

[6]陳海涛.中国語フィラー“这个”の使用法の分類に関する考察. 人間生活文化研究. 2017,27. p. 629-637.

付記

本研究は 2022 年度江蘇省教育科学“十四五”規划課題『基于日本与江苏某发达地区对比视阈下江苏省农村职业教育路径研究』(C-c/2021/03/52)の研究の一部である.

Abstract

In all languages around the world, every language necessarily has demonstratives. The demonstratives are important to describe thing in languages. In this paper, we will do a study on the usage of discourse demonstratives in Chinese languages in time and space. In Chinese language system, there are two series of discourse demonstratives, which are "zhe (this)" and "na (that)". The previous studies have paid most attention to the usage of discourse demonstratives. The usage of "zhe (this)" discourse demonstratives is described as“approximate”, and the usage of "na (that)" discourse demonstratives is described as“distant”. The usage of those discourse demonstratives is to be decided by the speaker. The speaker processes the uses of them by his/her cognition. This paper has not only pointed out some problems in the previous research, but also have explored the cognitive aspects of the usage of the discourse demonstratives to argue about the actual uses by demonstrating the cognitive models.

（受付日：2021 年 11 月 8 日，受理日：2022 年 9 月 9 日）

陳　海涛（ちん　かいとう）
現職：南京農業大学・外国語学院　日本語教師

2017 年 6 月九州大学で博士号を取得し，現在，中国南京農業大学外国語学院で日本語教師として勤めている．
専門は，「日中文脈指示詞の対照研究について」の研究である．
主な著書：《中日文脉指示词体系化对比研究》（陳海涛　吉林大学出版社）